



函館ドック大型クレーン解体 (北海道新聞社提供)

第198号 総会特集号



◆巻頭言◆ 曖昧力

会長 橋田 恭一
(昭和39年卒)

学力、体力、人間力、老人力、…など。頻繁に「力」なる言葉が使われている。今、それほどまでに「力」が求められている時代なのであるか。いつの時代であれ、社会を維持し変革していくためには、社会を構成する人間の強い力が必要である。とりわけ、先行き不透明な現代社会において、この動きは当然であろう。だが、様々な「力」が末尾に付けられている語彙の中でも「曖昧力」なる言葉にはいささか考えさせられてしまった。

最近、新刊本が売れないと言葉である。出版社はあの手この手を駆使して読者の心を掴もうとしている。本の内容もさることながらタイトルも購買数に大きく影響する。タイトルは読者の購買意欲を駆り立てるものでなければならぬので、勢い奇抜さと斬新さが求められる。「何、これ？」もの珍しさも手伝って「日本の曖昧力」なる本を手にしてしまった。

筆者は韓国女性。日本に留学して比較文化論を研究する気鋭の学者である。「融合する文化が世界を動かす」というサブタイトルにも惹きつけられた。とかく、日本人は「物事をはつきり言わない」「自主性がない」などと非難されることが多い。だが筆者はいう。日本人はむしろ曖昧だからこそ、日本は世界有数の安全で豊かな国になったのだ。これからは世界全体に、調和がとれた人間関係、環境への順応性を生み出す「曖昧力」が求められる時代になるであろう。では、日本人の曖昧さは何故生まれたのか？

韓国人や中国人さらには欧米人と比較をしながら日本人の思考や行動等を分析していく。そこには、日本人の持つ特性や良さにスポットをあてている。えてして韓国人や中国人等が日本人を見る時、極めて厳しい日本人論を展開する。それは、彼らが自国内で受けてきた反日教育が大きく影響しているからである。

筆者もその影響を受け、マイナスイメージを持って来日した。ところが、日本で生活してみても日本人の親切心や温かさに触れて日本人観も大きく変質する。一時、懐疑的になったが、理解が深まるほどに日本人や日本文化に魅せられてきた。そして、得た結論は前述の通りである。

外国人の生き方から日本人の特性に気付かされること、またある。特定の宗教に依拠して生活している欧米人には、キリスト教も仏教も神道も巧みに使い分けする、あるいは融合してしまう日本人の生活スタイルが理解できないようである。そこには、あえて特定なものに思考や生活が縛られない日本人が存在する。こうした何物をも融合させる精神性は、外敵に侵略されたこともない島国、かつ閉ざされた地域社会で集団の和を大切にしつつ創意工夫を凝らして生活の向上を図ってきた農耕社会が作り上げてきたものである。こうした集団の価値観を重んじ、こだわりなく自分の中に取り入れる進取の気風が今日の繁栄を築いたとするなら、融合する曖昧さも大いに結構である。

さて、我が母校を抱える函館市は、今年開港百五十周年を迎えた。開港当時、異文化に触れ、自身の学びへの憧れを満たすべく全国の俊英が函館に集った。こだわりの乗り越えて進んで外国文化を吸収した精神の原点は、「曖昧力」である。母校函館校の課程変更に伴い、今後、多様な職種を持つ夕陽会員が多くなる。まさに、夕陽会の「曖昧力」が試される時である。

顧問・参与会

六月五日(金) 函館国際ホテルにおいて、第四回役員会に引き続き、多数の顧問・参与の皆様の参加を得て顧問・参与会が開催された。

冒頭、「母校が新しく生まれ変わり、教職希望の卒業生より教職外希望の卒業生が増加してきている中で、夕陽会の組織強化を進め、将来へ希望を持ち、新しい発想で新しい道を切り拓いて行きたい。」との橋田会長の挨拶で会は始まった。尾島副会長の議事進行で報告協議が行われた。

総会議案審議では、二十年度の活動に関わって、特に、九十周年記念行事等事業が無事に終了できたこと。二十一年度運営方針推進事項、特に夕陽会組織の強化と運営の効率化と母校への支援について力点を置くこととなった。最後に役員の改選について協議し、この会を終えた。

全国支部長会議

夕陽会総会に先立って午後一時三十分より、二十八支部の代表の参加を得て、全国支部長会議が開催された。

花田庶務部長の司会進行で、尾島・中瀬両副会長を議長に議事が進められた。

母校の現状、各支部の取り組み等の報告や二十一年度運営方針、予算等の協議事項について話し合われた。

各支部からは、夕陽会が高評価されていること、教職についていない会員の確保や若手会員の会の結成、会費納入割合減についてなどの報告があった。

運営方針並びに推進事項では、「創造し、行動する夕陽会」をモットーに、①財政基盤の確立と会費納入の促進を目指す②人材の育成と会員の資質向上③組織強化と運営の効率化④母校への支援と地域への貢献⑤夕陽記念館の整備・活用について話されました。

総会運営について拍手で承認され、この会を終えた。

総会・大懇親会

百周年へむけて新たな一歩を

平成二十一年度 夕陽会総会

平成二十一年度の夕陽会総会は、六月二十日(土) 函館国際ホテルにおいて開催された。審議に先立ち挨拶に立った橋田会長は、昨年度より行われてきた創立九十周年の諸行事への会員の協力に謝辞を述べたあと「母校の学部再編により教員養成課程が終了し、すべてが新課程の学生となった。夕陽会の活動も一つ一つ修正し歩みを進め絆を強めていく必要がある。次の十年へ向け、しっかりと活動の見直しをしていくことが肝要だ。百周年へ向けて九十一年目から一年一年の歩みを大切にしていこう。」としめくくった。続いて議長として高田久氏(石狩)、菅田洋三氏(釧路)を選出し、役員選考委員・議事録署名人を確認したあと議事に入った。

報告事項では、須藤幹事長より平成二十年度会務・事業報告が行われ、各種九十周年行事事業が予定通り実施され、実行委員会が解散したこと、函館・旭川・苫小牧で教授対策講座が開かれたこと、本年度の新入会員が一六三名に達したことと等が報告された。続いて溝口財政部長より①通常会費会計②基本金会計③教育支援基金会計④創立九十周年記念事業会計の四会計について一括して報告があり、笹原監査からはすべて適正に処理されている旨の監査報告があった。

母校関係では平成二十二年「教職大学院」の開設へ向けた動きと「教育支援基金」設立への協力、学生の文化・スポーツ活動への支援、改築された旧ピアノ室

の一部を夕陽記念館活用準備室として活用運営することなどが報告され、すべての報告事項が拍手をもって承認された。

協議事項については、はじめに須藤幹事長より平成二十一年度の運営方針並びに推進事項の提案があった。本年度も「創造し行動する夕陽会」をモットーに次の六点を推進事項とし、本年度は特に重点項目(※印が重点項目)を明らかにして活動することが提案された。

- ①組織強化と運営の効率化
- ※支部・部会等の活動の充実と強化
- ※教職外会員の組織強化および高等学校支部、特別支援学校支部の強化
- ②人材の育成
- ※会員である道・市町村議会議員、首長、教育行政管理職等との連携
- ③財政の確立
- ※財政業務の効率的処理および財務管理システムの再構築
- ④研究・研修の奨励と文化事業の推進
- ※教育講演会等の開催
- ⑤母校への支援と地域貢献
- ※夕陽未来の教師フォーラム就職対策関係事業への支援
- ⑥夕陽記念館の整備活用
- ※夕陽記念館活用準備室の活用検討

次に溝口財政部長より平成二十一年度予算案が提案され、いづれも原案通り承認された。また本年度は役員改選期ではないが人事異動等に伴い一部役員が改選された。新役員は次の六名である。

- 副会長 山北 実(江差小学校)
 - 副会長 大西 正光(深堀中学校)
 - 副会長 三島 裕一(浜分中学校)
 - 幹事長 土谷 敬(附属中副校長)
 - 副幹事長 平田新次郎(附属特幸校副校長)
 - 副幹事長 奥崎 敏之(附属幼稚園副園長)
- (昭和59年卒、湯川小教頭、古川、邦彦記)

平成21年度 夕陽会総会

平成21年6月20日(土)



総会

さらに母校において民間企業への進路をとる学生を指導するキャリアオアガナイザーを紹介するとともに「今年の一年生の中に教職希望が百名いる。大学の方々に努力を願ひ、学生への支援をお願いしたい。」と母校への期待を示しました。

来賓の挨拶では、西尾正範函館市長より「函館市は開港百五十周年を迎えており、本来持っている地域の伝統の素晴らしさを伝えるとともに、新たな発展をしていくために、人の力が重要である。その人材育成に向けて、夕陽会にはさらなるご支援をお願いしたい。」とお言葉がありました。

吉田一昭北海道教育庁渡島教育局長からは、「これまでの伝統を守りながら、子供たちのよりよい成長のために、生きる力を育てていきたい。創造し行動する夕陽会のますますのご尽力をお願いしたい。」との期待の言葉をいただきました。

続いて、杉浦清志北海道教育大学副学長(函館校担当)が壇に立たれ、「夕陽会も公務員、一般企業の人も取り込んで変化していかなければならない。卒業式には夕陽会へ加入を呼びかけている。ぜひ温かく迎えていただきたい。そして、様々な職場の人が一緒になって母校を支えていただきたい。」とのご挨拶をいただきました。

平田新次郎副幹事長の祝電・祝詞披露の後、恒例の音楽科卒業生八名の合唱団による校歌と学生歌が会場に響き渡り、雰囲気も一気に盛り上がりました。

岩村吉男渡島教育委員会教育長会長の「会長とともにがんばっていきましょう。」との

ご発声で祝宴が開始されました。

祝宴の中では、藤澤義博函館青年会議所理事長より「教育大を卒業した学生が活躍できる場を設定できるようがんばりたい。皆さんのご支援をよろしくお願ひしたい。」とお話をいただきました。

会場内は各卒業年次毎の席で、若き日の記憶をよみがえらせ、旧交を温め合いながら、青春時代に戻ったように語り合う姿が見られ、夕陽会大懇親会ならではの熱気溢れる雰囲気になりました。その熱気に後押しされるように、フレッシュな新会員が登壇し、それぞれが若者らしい元気なアピールを行いました。

さらには、道幸拓志長万部町教育委員会教育長より新会員に対して、期待と励ましの言葉が送られ、新たな夕陽の同士となった八名の胸にしつかりと刻み込まれたものと思われまます。



宴も佳

境に入り、

恒例の

エールを

高間猛先

生(昭和

六十二年

卒)の打

ち鳴らす

太鼓に合

わせて、

登壇した

西村祐紀

先生(平

成十八年

卒)がバ

ンカラ調

で檄を飛

ばし、三

三七拍子

に合わせた

手拍子に、

会場全体

が大いに

沸きかえ

りました。

時間も残

り少なくな

り、トリを

飾る寮

歌の大合唱

が始まり

ました。諸

先輩方が

背に「夕陽」

の揃いの法

被姿で登壇

すると、会

場の雰囲気



と、小林周次先生(昭和三十三年卒)の音頭で、母校に対する思いを込めた歌声が会場全体を揺らすように響き渡りました。

余韻が覚めないまま最後の乾杯に移り、多賀谷智函館市教育委員会教育長の「教育立市に向かって優れた人材を育てなければならぬ。夕陽スピリットの創造と行動する力で母校を支え、がんばっていきましょう。」という力強い言葉に、参会者の心が一つになり、お開きとなりました。

最後に大西正光本部副会長の閉会の言葉により、夕陽会大懇親会も盛会裡に終了しました。

(昭和54年卒 桔梗小学校長 戸澤 和彦(生)

平成二十一年度 夕陽会運営方針並びに推進事項

《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努める。

《推進事項》

1 組織強化と運営の効率化

会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と運営の効率化を図る。

(1) 各界の会員動態の把握と広報活動の充実。

(2) 支部、部会等の活動の充実と支援の強化。(重点事項)

(3) 教職外会員の組織化及び高等学校支部、特別支援学校支部の強化。(重点事項)

(4) 女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画。

(5) 本部と各支部、各ブロックとの連携強化。

(6) 夕陽会報198、199、200号の発行。

(7) 母校及び附属学校園に関する情報の収集と活用。

2 人材の育成

人材の発掘と会員の資質と地位の向上を図る。

(1) ※会員である道・市町村議会議員、首長、教育行政管理職等との連携。(重点事項)

(2) 関係機関・団体に所属する会員との連携。

3 財政の確立と業務の効率化

活発化する活動の維持・発展を図るため、財政の確立と財務の効率的な推進に努める。

(1) 財政基盤の確立と諸会費納入の促進。

(2) 財政業務の効率的处理及び財務管理システムの再構築。(重点事項)

研究・研修の奨励と文化事業の推進

会員による個人及び共同の研究等を奨励し、特に若手会員の研究・研修意欲の高揚を図る。

(1) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介。

(2) 会員のスポーツ・文化・芸術活動への支援。

(3) 夕陽文化事業の検討。

(4) 教育講演会等の開催。(重点事項)

5 母校への支援と地域への貢献

母校の発展を願ひ、当面する課題解決のための支援を行う。

(1) 大学の地域連携・社会貢献への協力・支援。

(2) 在学生(会員予定者)に対する同窓意識の啓発。

(3) ※夕陽未来の教師フォーラム就職対策関係事業への支援。(重点事項)

(4) 学生のスポーツ・文化・芸術活動への支援。

6 夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用

夕陽記念館の改修に合わせ、各種記念資料等の収集と適切な保存、展示とともに活用を図る。

(1) 会員の作品、記念資料等の収集と会報での周知。

(2) 夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備。

(3) 夕陽記念館の教育活用。

(4) 夕陽記念館の学生・地域住民への開放と管理の検討。

(5) ※夕陽記念館活用準備室の活用検討。(重点事項)

夕陽会本部 事務局業務分担

庶務部

花田 譲(附属小副校長)

1 諸会議(含懇親会)の諸準備及び進行、記録

2 文書の收受、発送及び保管

3 会員の慶弔事務

4 その他、庶務に関する事

財政部

溝口 幸司(金堀小長)

1 通常会費の徴収、支出事務

2 基本金及び特別会計の徴収、支出

事務

3 予算書、決算書の作成

4 前納会員に関する事務

5 その他、財政に関する事

組織部

奥崎 敏之(附属幼稚園長)

1 支部組織の編成と組織強化対策

2 会員の動態調査(支部別、校種別会員名簿)

3 支部役員名簿等の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集

4 その他、組織全般に関する事

情宣部

伊勢 藤 昭(駒場小長)

1 「夕陽会報」の発行

2 事務局報の発行

3 その他、情宣に関する事

web委員長

熊谷 光洋(深堀小長)

文化部

中村 吉秀(亀尾小中長)

1 会員の文化活動に対する支援

2 文化事業(音楽会・美術展・書道展等)の企画、実施

3 その他、文化に関する事

研修部

林 敏雄(峠下小長)

1 会員の地位向上対策

2 会員の個人及び共同研究への助成

3 支部・ブロックにおける研修活動に対する支援

4 その他、研修に関する事

厚生部

阿部 憲司(桐花中長)

1 会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施

2 記念資料及び会員の作品収集

3 夕陽記念館の整備、充実

4 その他、厚生に関する事

平成二十一年度 夕陽会本部役員名簿

会 長	函館市日吉町1―22―23 橋田恭一（昭和39年卒）	副 会 長	函館市立鶴神小学校校長 長谷涉（昭和47年卒）	副 会 長	函館市立深堀中学校校長 大西正光（昭和48年卒）	会 長	函館市立浜分中学校校長 三島裕一（昭和48年卒）	会 長	北海道函館中部高等学校校長 黒田信彦（昭和50年卒）	会 長	函館市湯川町2―43―13 尾島梯介（昭和34年卒）	会 長	北斗市押上2―3―10 山柿三夫（昭和29年卒）	会 長	江差町立江差小学校校長 山北実（昭和48年卒）	会 長	札幌市西区福井2―3―25 中瀬裕義（昭和34年卒）	会 長	青森市造道1―9―28 中谷匡利（昭和42年卒）	会 長	北海道教育大学附属函館中学校副校長 土谷敬（昭和54年卒）	会 長	北海道教育大学附属函館小学校副校長 花田花子（昭和55年卒）	会 長	北海道教育大学附属函館幼稚園副園長 奥崎敏之（昭和60年卒）	会 長	北海道教育大学附属特別支援学校副校長 平田新次郎（昭和62年卒）	会 長	函館市柏木町2―17 田中久（昭和33年卒）	会 長	函館市北美原2―13―12 信田利之（昭和33年卒）	会 長	北斗市常盤1―15―20 加藤宏文（昭和34年卒）	会 長	函館市住吉町17―18 池上信廣（昭和37年卒）	会 長	函館市榎本町6―20 繪面和子（昭和39年卒）	会 長	函館市桔梗4―5―6 絹野重治（昭和40年卒）	会 長	函館市川原町18―10―503 天野哲征（昭和41年卒）	会 長	函館市八幡町2―17 伊藤皓嗣（昭和44年卒）	会 長	函館市立北美原小学校校長 碓幸信（昭和49年卒）	会 長	木古内町立木古内小学校校長 竹内良容（昭和48年卒）	会 長	函館市立北美原小学校教頭 片桐由博（昭和57年卒）	会 長	鹿部町立鹿部中学校校長 川野真一（昭和54年卒）	会 長	森町字森川町303―61 松田明雄（昭和30年卒）	会 長	函館市花園町5―10 五百川忠（昭和32年卒）	会 長	函館市富岡町2―59―9 笹原志郎（昭和38年卒）	会 長	北海道教育大学副学長（函館校担当） 杉浦清志	会 長	東京都東久留米市学園1―13―4 三枝智三郎（昭和9年卒）	会 長	札幌市南区真駒内緑町 浅井好二（昭和11年卒）	会 長	函館市五稜郭町41―9 細田辰男（昭和11年卒）	会 長	函館市柏木町4―20 安松松松進（昭和24年卒）	会 長	函館市深堀町35―24 川島孝夫（昭和31年卒）	会 長	名古屋市守山区小幡字北山270―339 萩原忠臣（昭和5年卒）	会 長	函館市の場町24―15 高坂藤吉（昭和15年卒）	会 長	函館市東山2―17―8 北沢川省吾（昭和15年卒）	会 長	札幌市豊平区西岡4―5―5―18 上元啓紀（昭和17年卒）	会 長	札幌市南区川治1―4―9―3 大場光行（昭和17年卒）	会 長	三沢市中央町3―10―24 奥寺恒夫（昭和17年卒）	会 長	国分寺市本多2―13―5 竹野日日栄（昭和18年卒）	会 長	函館市梁川町22―2 西谷富士雄（昭和18年卒）	会 長	函館市松陰町3―24 敷田幸作（昭和18年卒）	会 長	函館市元町4―7 八木幸夫（昭和19年卒）	会 長	東京都杉並区下高井戸5―19―1 木下邦茂（昭和20年卒）	会 長	函館市本町20―13 名東陽吉（昭和22年卒）	会 長	函館市川原町13―2 大坂昭雄（昭和22年卒）	会 長	函館市銭亀町245―39 赤泊昭吉（昭和23年卒）	会 長	函館市深堀町40―11 山尾正（昭和23年卒）	会 長	札幌市西区発寒7条 中山素水（昭和24年卒）	会 長	札幌市東区伏古7―2―4―35 町田治雄（昭和24年卒）	会 長	函館市柏木町31―5 三上巖（昭和24年卒）	会 長	函館市中道1―12―11 大淵亮三（昭和26年卒）	会 長	七飯町中山3―303―21 杉山利夫（昭和27年卒）	会 長	知内町元町301 田渡島渡渡隆（昭和28年卒）	会 長	陸前高田市高田町字砂畑11―6 田中則夫（昭和28年卒）	会 長	函館市柏木町16―6 田中俊也（昭和29年卒）	会 長	函館市本町17―2―602 北林秀男（昭和29年卒）	会 長	函館市中道2―2―3 永谷潤一（昭和29年卒）	会 長	函館市神山3―18―20 森野重雄（昭和30年卒）	会 長	函館市山の手2―36―7 富尾勝（昭和30年卒）	会 長	函館市桔梗町5―21―32 大島安長（昭和30年卒）	会 長	函館市中道1―28―1 今野久男（昭和30年卒）	会 長	函館市松川町42―15 小川信夫（昭和31年卒）	会 長	札幌市東区金山1―6―2 伴伊達伊達夫（昭和31年卒）	会 長	八雲町教育委員会教育長 岩村吉男（昭和31年卒）	会 長	函館市湯川町2―35―7 加藤弘（昭和32年卒）	会 長	江別市大森町26―18大森コーポ516 小村村村毅（昭和32年卒）	会 長	函館市富岡町1―12―12 田村志朗（昭和32年卒）	会 長	北斗市常盤1―20―1 磯部正博（昭和32年卒）	会 長	函館市青柳町21―20―501 野田義成（昭和32年卒）	会 長	函館市深堀町2―8 高村昭三（昭和33年卒）	会 長	札幌市厚別区大谷地5―1―15―153 守山和男（昭和34年卒）	会 長	函館市赤川町57 中島征士（昭和34年卒）	会 長	函館市松陰町25―36 山内洋三（昭和35年卒）	会 長	函館市富岡町1―10―14 小笠原愈（昭和35年卒）	会 長	函館市川原町4―24 金山正智（昭和35年卒）	会 長	函館市美原2―26―9 石岡博心（昭和36年卒）	会 長	北斗市本町133―34 山内脩介（昭和36年卒）	会 長	函館市見晴町9―8 小澤勲（昭和37年卒）	会 長	札幌市厚別区厚別東2条4―10―3 青野昌勝（昭和37年卒）	会 長	七飯町中野48―7 小浅梯司（昭和37年卒）	会 長	函館市東山1―11―2 札内征男（昭和37年卒）	会 長	函館市深堀町18―3 吉田恵悦（昭和39年卒）	会 長	函館市桔梗4―34―8 石坂新一（昭和40年卒）	会 長	乙部町字栄浜 中川眞一郎（昭和40年卒）	会 長	札幌市中央区南13条西21―1―4―702 古旗英捷（昭和41年卒）	会 長	函館市山の手2―22―4 宮下勤（昭和41年卒）	会 長	函館市深堀町14―29 齊藤孝（昭和41年卒）	会 長	函館市深堀町7―16 長谷川良任（昭和41年卒）	会 長	函館市桔梗町59―197 田中洋（昭和42年卒）	会 長	函館市西旭岡町2―23―3 寺岡昭治（昭和42年卒）	会 長	函館市深堀町16―2 門脇正和（昭和42年卒）	会 長	函館市山の手1―27―12 小山内武弘（昭和42年卒）	会 長	札幌市北区太平8―5―5―7 青柳史匡（昭和42年卒）	会 長	札幌市北区新川2条11―2―61 野田孝夫（昭和43年卒）	会 長	函館市日吉町4―21―7 川合正芳（昭和43年卒）	会 長	函館市美原1―46―14 安保勝順（昭和44年卒）	会 長	函館市亀田本町59―3 谷村誠（昭和44年卒）	会 長	江別市大麻沢町1―10 佐藤義昭（昭和44年卒）	会 長	札幌市中央区北4条西24―2―1―501 二木柳隆通（昭和45年卒）	会 長	七飯町字本町481―31 大川富美男（昭和45年卒）	会 長	函館市教育委員会教育長 多賀智智智（昭和45年卒）	会 長	函館市昭和2―12―5 武田隆雄（昭和46年卒）	会 長	北海道議会議員 平出陽子（昭和46年卒）	会 長	函館市上野町29―29 畑野克行（昭和49年卒）	会 長	知内町教育委員会教育長 田中健一（昭和49年卒）
--------	-------------------------------	-------------	----------------------------	-------------	-----------------------------	--------	-----------------------------	--------	-------------------------------	--------	-------------------------------	--------	-----------------------------	--------	----------------------------	--------	-------------------------------	--------	-----------------------------	--------	----------------------------------	--------	-----------------------------------	--------	-----------------------------------	--------	-------------------------------------	--------	---------------------------	--------	-------------------------------	--------	------------------------------	--------	-----------------------------	--------	----------------------------	--------	----------------------------	--------	---------------------------------	--------	----------------------------	--------	-----------------------------	--------	-------------------------------	--------	------------------------------	--------	-----------------------------	--------	------------------------------	--------	----------------------------	--------	------------------------------	--------	---------------------------	--------	----------------------------------	--------	----------------------------	--------	-----------------------------	--------	-----------------------------	--------	-----------------------------	--------	------------------------------------	--------	-----------------------------	--------	------------------------------	--------	----------------------------------	--------	--------------------------------	--------	-------------------------------	--------	-------------------------------	--------	-----------------------------	--------	----------------------------	--------	--------------------------	--------	----------------------------------	--------	----------------------------	--------	----------------------------	--------	------------------------------	--------	----------------------------	--------	---------------------------	--------	---------------------------------	--------	---------------------------	--------	------------------------------	--------	-------------------------------	--------	----------------------------	--------	---------------------------------	--------	----------------------------	--------	-------------------------------	--------	----------------------------	--------	------------------------------	--------	-----------------------------	--------	-------------------------------	--------	-----------------------------	--------	-----------------------------	--------	--------------------------------	--------	-----------------------------	--------	-----------------------------	--------	--------------------------------------	--------	-------------------------------	--------	-----------------------------	--------	---------------------------------	--------	---------------------------	--------	-------------------------------------	--------	--------------------------	--------	-----------------------------	--------	-------------------------------	--------	----------------------------	--------	-----------------------------	--------	-----------------------------	--------	--------------------------	--------	-----------------------------------	--------	---------------------------	--------	-----------------------------	--------	----------------------------	--------	-----------------------------	--------	-------------------------	--------	---------------------------------------	--------	-----------------------------	--------	----------------------------	--------	-----------------------------	--------	-----------------------------	--------	-------------------------------	--------	----------------------------	--------	--------------------------------	--------	--------------------------------	--------	----------------------------------	--------	------------------------------	--------	------------------------------	--------	----------------------------	--------	-----------------------------	--------	---------------------------------------	--------	-------------------------------	--------	------------------------------	--------	-----------------------------	--------	-------------------------	--------	-----------------------------	--------	-----------------------------

平成二十一年度支部役員名簿

長田中隆夫	副橋俊夫	副菅原清貴	副近野豊隆	会武田隆二	長高山久美	副阿部春美	副谷川季文	副冷水元彦	会河野修一	長平野雄二	副阿部政範	副安部法雄	幹長谷川誠	会丸岡哲也	長木村哲男	副内山公全	副波谷和則	副寺澤真	副小友和	副廣崎哲司	幹堀上智行	会上川博美	長石川博美	副井上松博	副近藤初美	幹森藤将人	会平井将人	会(宗谷)	長山口潤	副池田忠喜	副大野隆	副島田茂	幹島田勇	長(留萌)	副秋葉良之	幹高木昌弘		
昭49	昭47	昭51	昭48	昭48	昭48	昭49	昭50	昭52	昭55	昭49	昭52	昭49	昭53	平2	昭51	昭54	昭55	昭56	昭58	昭58	昭62	昭49	昭47	昭47	昭53	昭57	平10	昭48	昭48	昭48	昭53	昭51	昭51	平2	昭48	昭53	昭53	
札幌市	札幌市	札幌市	札幌市	札幌市	千歳市	千歳市	北広島市	千歳市	千歳市	倶知安町	蘭越町	赤井川村	喜茂別町	黒松内町	西陵小頭	幸小長	手宮西小長	松ヶ枝小長	花園小長	小樽市	小樽市	小樽市	旭川市	旭川市	旭川市	美瑛町	旭川市	富良野市	稚内市	稚内市	稚内市	稚内市	稚内市	留萌市	幌糠小頭	焼尻小頭	初山別村	
真駒内小長	東月寒小長	手稲山口小長	幌西小長	新琴似小長	あやめ野中長	信濃小長	向陽台小長	西の里小長	祝梅小長	恵北中長	支笏湖小長	倶知安小長	蘭越小長	赤井川小長	喜茂別中長	黒松内中長	西陵小頭	幸小長	手宮西小長	松ヶ枝中長	花園小長	張碓小長	最上小長	末広中長	末広小長	美進小長	向陵小頭	扇山小論	潮見小長	浜頓別小長	船泊小長	拓心中長	潮見が丘中長	幌糠小頭	焼尻小頭	初山別小頭		
会中野恵平2	長川島富樹	副四辻順一	副阿曾秀任	会小助川浩	長竹内良容	副小林基英	副市川秀雄	副川類直人	会小野寺幸恵	長碓氷幸信	副青木昌史	副鳴海裕	幹片桐由博	(空知)	長笠原利博	副石垣正公	副杉野幹公	会山崎優	会佐々木祐治	(胆振連合)	長中澤学	副高橋達夫	副寺島雅克	副問谷英克	幹和野忠康	会花田啓光	長松谷淑淑	副小玉恭幸	副納博紀	副川上博之	副寺田博之	副反田洋子	幹大山秀規	会山形知憲				
増毛町	上ノ国小長	上ノ国町	せたな町	久遠小長	湯ノ岱小長	乙部小長	乙部小長	乙部小長	乙部町	木古内町	八雲町	七飯町	藤城小長	鹿部中長	沖川小頭	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長	北美原小長		
副後藤子	幹南部誠	会小林誠	長鳥井政夫	副小笠原進	副細川清茂	副岡内猛	副久保田達也	幹松井伸樹	会松井伸樹	長伊藤治久	副藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	副永藤代好盛	
昭51	昭52	昭58	昭47	昭49	昭51	昭52	昭55	昭57	昭57	昭47	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	昭49	
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市
室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市	室蘭市																					

就任ご挨拶

夕陽、永久に
とこしえ

副会長 三島 裕一
(昭和48年卒 北斗市立浜分中学校長)

この度、渡島小中学校長会長就任に伴い夕陽会副会長を仰せつかりました。会長、役員の皆様のご指導を仰ぎながら精いっぱい努力したいと考えています。

さて、同窓という言葉は、同じ学舎で勉学に励んだ仲間という意味です。ところが私は昭和四十八年の卒業ですが、当時を思い出しても「共に学んだ」という記憶はあまり残っていません。しかし楽しかった桐花寮での生活や真剣に技量を磨いたサークル活動、そして先輩や友との熱き語らいの記憶は強烈に残っています。夕陽会は、いつも同窓の方々との楽しい懇親の場があり、当時の溢れんばかりのエネルギーや新鮮な好奇心などを思い

出させてくれる希有な場の一つですが、もう一つ、眠っている向上心を沸き立たせてくれる場でもあるのです。

今、母校は未来に向かって新たな船出の時を迎えました。しかしその根底にある「開拓の精神」「進取の心」を失うことなく、渡島、函館、そして北海道のために新しい理念と方向性を持った大学としての存在感を示していただきたいと思えます。夕陽賛歌の一節にある「夕陽永久に」のとおり、建学の精神を受け継ぎつづ、未来永劫にわたって新しい風を吹き込んでいけるよう、微力ながらお手伝いしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



就任に当たって

副会長 大西 正光
(昭和48年卒 函館市立深堀中学校長)

この度、函館市中学校長会会長の就任に伴い、夕陽会の副会長も仰せつかりました。微力ではありますが、少しでも夕陽会のためになることができればと考えております。

教職に就き、二十代後半から附属中学校に席を置いたことから、夕陽会との付き合いは長く、言葉では言い尽くせないほどお世話になっております。

特に思い出すのは十五年前、苫小牧市教育委員会にお世話になった時のことです。見知らぬ地で仕事をしなければならぬ自分を助けてくださったのは夕陽の皆さんでした。管理職の方々のみならず一般教員の方々からも励まされ、助けて

いただき、指導主事としての仕事を大過なく果たすことができました。今なお感謝しております。また、夕陽会員であるというだけで、他の同窓の方々から沢山のご厚情をいただいたものです。その時ほど、夕陽の方々が見えただけで皆立派に職責を果たし、信頼される存在となつていて、と感じたことはありません。夕陽の指導主事の助言は暖かい、ともよく言われました。夕陽の懐の大きさがそうさせてくれたのではないかと、思い起こしています。

夕陽会にはきつと死ぬまでお世話になると思いますが、今年は少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思います。



就任にあたって

副会長 山北 実
(昭和48年卒 江差町立江差小学校長)

このたび、副会長の大任を仰せつかり、戸惑いとともに、その重責に身の引き締まる思いであります。微力ではありますが、橋田会長様をはじめ、先輩諸氏の御指導を受けながら、夕陽会の発展のために努めたいと存じます。よろしくお願いいたします。

早いもので、母校を卒業して三十七年目を迎えました。本州へ赴く者、また全道各地へ赴く者が多い中で、私は幸運にも、生まれ育った檜山管内で教員のスタートを切ることができました。

檜山で十八年勤務した後、平成三年の春、網走教育局に勤務することになりました。もちろん初めての土地であり、初

めての教育行政の仕事とあつて、大変不安を感じたものですが、人との出会いの妙を深く感ずる貴重な経験となりました。当時の網走教育局長は守山和男先生で先生は檜山教育局に勤務されたことがあり、二十代の頃の私の拙い授業を二度ほど見ていただいたことがあったのです。

また、網走の夕陽会の集いにも参加させていただき、函館から遠く離れた網走の地で、同窓が固い絆で結ばれていることを実感しました。皮肉にも、檜山時代に経験しなかった夕陽会のよさを網走の地で味わうこととなったのです。議会の減少が進むこの檜山で夕陽の歴史と伝統をいかに継承するかが課題です。

受章(賞)おめでとunggざいます

前号で叙勲の榮譽に輝いた皆様をご紹介いたしましたがお三人の方が漏れておりました。心からお詫びを申し上げ、改めてご紹介いたします。また、新しく受章された方もご紹介いたします。

*瑞宝双光章

尾形 猛氏 昭和24年卒
函館市

*日本教育音楽協会

二〇〇八年度音楽教育功労者
寺中 哲二氏 昭和31年卒
函館市

高橋 茂広氏 昭和16年卒
青森町

千葉 貫一氏 昭和15年卒
函館市





幹事長就任に当たって

(昭和54年卒)

北海道教育大学附属函館中学校副校長

幹事長 土谷 谷谷 敬

この度、総会において御承認をいただき幹事長という大任を仰せつかりました。もとより微力ではありますが、橋田会長様はじめ、役員の皆様の御指導と会員の皆様の御協力をいただきながら夕陽会の発展のために尽くして参りたいと思います。

これまで、副幹事長と組織部長を六年間兼務させていただき、各支部総会におじゃまをしたり、夕陽会創立九十周年事業に携わらせていただいたりと多くの経験をさせていただきました。これらの経験は、各支部の活動の状況を実際に見聞

きたり、夕陽会に馳せる会員の皆様の思いを身をもって知る、今後の職分において貴重な経験となったことは言うまでもありません。

思い起こせば、私は夕陽会員となり、三十数年になんなんとしておりますが、第六代の高杉留七会長時代に調査部(現組織部)の置かれていた学校に勤務し、それらの会務に携わることや第一回夕陽音楽祭の歌謡大会出場などを通して比較的若い時期から夕陽会員としての意識が芽生える環境にいたることができたように記憶しております。その後も夕陽美術展

の実行委員をさせていただいたり、組織部の置かれる学校への二度の勤務等、いつも夕陽会が身近にありましたので、役員や部長さんの御苦労も十分理解しております。

さて、夕陽会の課題も時代の変遷に伴い変化を遂げていますが、なんといつても組織拡充と活動の活性化、百周年に向けての本部・各支部等の歴史の集積が取り組むべき課題と考えております。

そのためには、橋田会長の就任に当たった基本方針「チェンジ」の発想が新たな転機を開くことを確信し、その意を体することに努めたいと思っております。

前幹事長同様に会員の皆様の御協力をお願い申し上げ、就任の御挨拶といたします。

いい思いを感じ、時代は違っても青春を過ごした函館の思い出を交流させていただきました。感激でした。

このたびの創立九十周年事業では、会員の心の古里である「夕陽記念館」が内外共に全面改修され往時の姿に蘇りました。そして、記念誌・同ビジュアル版・DVDにより夕陽会と母校函館校の伝統と歩みが再確認されたことと思います。

いよいよ創立百周年へ歩み始めました。夕陽会も社会の変化に対応していかねければならない時代となってきました。私は、会員の皆さんからいただいた多くの財産を元に一会員として貢献していく覚悟です。会員の皆様にはお元気で、そして夕陽会がますます発展することを祈念いたします。夕陽とこしえに、とこしえに。



夕陽とこしえに

お世話になりました

前幹事長 須藤 由司

(昭和52年卒 函館市立磨光小学校長)

平成二十一年度の総会におきまして、幹事長四年の本部役員を退任いたしました。「大過なく」と言いたいところですが、もとより力量不足のため、皆様のご期待に添えなかったことが多く、深く反省しております。しかし、川島孝夫前会長並びに橋田恭一会長はじめ本部役員・事務局の皆様や全国各支部の役員の皆様のお力添えをいただいて、何とか業務を推進していくことができました。本当にあり

ありがとうございます。思い返しますと、母校のキャンパス再

寄贈図書を紹介

「新カレッジ英文法セミナー」

大坂 四郎氏

(昭和39年卒)
(平成10年院卒)

南雲堂から出版された本書は、英語検定二級に挑戦しようとしている人や、自分の英語力を高めようとしている人たちのために作成されたテキストであります。

二〇〇三年に出版された、「カレッジ英文法入門」と同様、わかりやすい文法解説と豊富な練習問題で構成されているのが本書の特長です。

また、文法解説と練習問題で用いられている例文はどれも、日常生活で使われるような利便性のある文です。

このテキストの使い方として、一日一項目(四十五分)を五週間連続で、(問題をやると)↓(答をチェックする)↓(解説を読む)↓(再び問題をやる)↓(再び該当項目の解説を読む)を二、三度繰り返すというように、効果的なトレーニングの仕方が最初に紹介されています。

英語検定の問題を意識して、並び替えや書き換え、同意文の選択などバラエティに富んだ形式の問題が出題されており、英語学習者にとつては大変魅力のあるテキストと言えるでしょう。

(昭和56年卒) 5 幹事長 5 土谷 5 敬記



同窓の絆に支えられて

(昭和62年卒)

北海道教育大学附属特別支援学校副校長

副幹事長 平田 新次郎

このたび、附属特別支援学校副校長という立場から、夕陽会副幹事長の任を仰せつかることになりました。数多くの偉大な先輩諸氏が築かれた夕陽会の歴史と伝統を受け継ぎ、今回こうしてその重責を担うことになり、戸惑いと気の引き締まる思いでいっぱいです。

思い起こしてみますと、大学を卒業して初めて勤務した網走での五年間、ご指導いただいた大学の先生に声を掛けていただいた勤務した前身の附属養護学校での六年間、さらにいろいろな方とのかかわりが増えた八雲中学校での八年間、そして教頭として勤務した檜山二町での三年間と、それぞれの場所や立場で、夕陽

の先輩や同僚、後輩の皆様には大変お世話になりました。また、ご迷惑をお掛けしたことも多く、反省することばかりです。

さて、過日開催された総会や大懇親会に出席した折にも、お世話になった皆様に久しぶりにお会いすることができ、励ましの言葉を掛けていただき、同窓の絆の深さに改めて感謝するばかりです。

私自身はもとより微力で、力不足ではありますが、「創造し行動する夕陽会」のために、一層の努力をもって精一杯の貢献をしたいと思います。今後とも会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



副幹事長に就任して

(昭和60年卒)

副幹事長 奥崎 敏崎

このたび、附属函館幼稚園副園長への異動に伴い、夕陽会の副幹事長(兼組織部長)を務めることとなりました。与えられた任の大きさに戸惑いと不安から、改めて本職の重さを感じております。

室蘭市教委、道立教育研究所と教育行政に携わり、九年ぶりの函館勤務となりました。道路や人など函館の街は大きく変わっておりましたが、その中でもとりわけ大学の変貌は著しく、教職を目指す学生の人数や質の変化への対応は今後の夕陽会にとって、大きな試金石となっているように感じました。

組織部の仕事は、人の集まりを基盤と

北海道教育大学附属函館幼稚園副園長とする同窓会の活動においては根幹をなす重要なものですが、以前にも、当時の松本征八幹事長のもとで組織部員を務め、名簿の電子化に取り組みしました。

教育や学校といった面に特に配慮して設計された十年前のデータベースを、橋田会長のもとで、次の時代を乗り越えるものに改め、再構築することが私に課せられた重要な役割と感じ、本会のため微力ながら最大限の努力を続けて参ります。会員の皆様のご協力、お力添えを今後とも引き続き賜りますようお願い申し上げます。

新たな美術作品の寄贈

三 箇 三 郎 氏

(昭和22年卒)

この度、昭和22年卒業の三箇三郎氏から夕陽記念館へ油彩画(100号)の大作を寄贈いただきました。絵のタイトルは「恵山」です。画面いっぱいに赤を基調として描かれた活火山「恵山」の息吹が力強く感じられる作品です。

この寄贈を機に、母校とも協議を重ねた結果、今後、夕陽記念館に所蔵している貴重な作品等を大学本館に展示場所を設置し、定期的に作品を入れ替えながら広く学生や教員、来校者の皆さんに鑑賞してもらうことにいたしました。



夕陽会ホームページの利用について

夕陽会ホームページはweb委員会により、刷新されてから4年が経過しました。現在まで、約23,000人の方からアクセスがありました。母校や同窓会の活動の様子、各支部の現在など最新の情報を夕陽会員の皆様に提供すべく、更新作業に努力しております。

夕陽会ホームページ の主な情報

会長挨拶、名称由来、教育精神、夕陽記念館、夕陽会の歩み
会員数、組織、規約、会旗、夕陽讃歌経過
母校90周年記念式典、支部・本部掲示板
本部・支部・支会だより、同期会だより、会報紹介、本部会報
渡島支部会報、函館市支部会報、歌のアルバム「讃歌、校歌、寮歌他」
母校の活躍、母校の今日、母校の歩み

映像あり、音楽ありとこれまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

また、個人情報保護法の完全施行にともない、法令の趣旨を遵守し、広報活動の健全性を保つよう努めています。会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

<http://www.sekiyou2005.sakura.ne.jp/>

情宣部web委員会委員長 熊谷 光 洋 (昭和50年卒)



北海道教育大学函館校卒業式に
出席する。(函館)
函館校卒業式において平成二十
年度卒業生の新入会員の勧誘を
行う。(函館)
本部会報197号を発行する。
北海道教育大学合同入学式に橋
田会長が出席する。(札幌)
高橋北海道教育委員会教育長を
橋田会長が訪問する。(札幌)
本部事務局会議を開催し、新年
度体制・会務・事業について協
議する。(函館)
橋田会長、土谷幹事長代行が渡
島教育局を訪問し、吉田教育局
長、堤次長と懇談する。(函館)
夕陽指導主事等会鈴木会長と橋
田会長が懇談する。(函館)
函館市幹部と橋田会長、土谷幹
事長代行が懇談する。(函館)
春の叙勲に祝意を表す。
会計監査を行う。
本部役員会を開催する。
本部役員会、顧問・参与会を開
催する。
平成二十一年度全国支部長会
議・本部総会・懇親会を開催す
る。
学生対象の夕陽教育フォーラム
を開催する。
事務局員会議を開催する。
通信陸上中学40mR優勝チーム
に創設された夕陽会長杯を贈る。
函館市支部総会に橋田会長・土
谷幹事長代行が出席する。(函館)
在札夕陽指導主事等会歓迎会に
土谷幹事長代行が出席する。(札幌)
空知支部総会・歓迎会に橋田会
長・土谷幹事長代行が出席する。
札幌市支部懇親会に橋田会長・
土谷幹事長代行が出席する。(函館)
釧路支部総会に橋田会長が出席
する。(函館)
八雲支会総会平田副幹事長が出

席する。(八雲)
室蘭支部総会に土谷幹事長代行
が出席する。(室蘭)
小樽支部総会に奥崎副幹事長が
出席する。(小樽)
上川支部総会に土谷幹事長代行
が出席する。(旭川)
帯広・十勝支部総会に天野総務
が出席する。(帯広)
石狩支部総会に中瀬副会長が出
席する。(札幌)
渡島支部総会に橋田会長が出席
する。(函館)
昭和33年卒同期会に橋田会長が
出席する。(函館)
檜山支部総会に土谷幹事長代行
が出席する。(江差)
後志支部総会に橋田会長が出席
する。(倶知安)
函館市支部幹事会・新会員、転
入会員懇親会に橋田会長、土谷
幹事長代行が出席する。(函館)
苫小牧支部総会に橋田会長が出
席する。(苫小牧)
森支会総会に土谷幹事長代行が
出席する。(森)
北斗支会総会に橋田会長・土谷
幹事長代行が出席する。(北斗)
「江戸の粋 千社展」(酒井義
雄昭和32年卒)が函館駅イカス
ホールで開催される。(函館)
「水彩画、油彩画、デザイン」展
が函館市芸術ホールギヤラ
リーで開催される。(函館)
木古内支会総会に花田副幹事長
が出席する。(木古内)
長万部支会総会に土谷幹事長代
行が出席する。(長万部)
知内支会総会に橋田会長が出席
する。(知内)
鹿部支会総会に橋田会長が出席
する。(鹿部)
昭和40年卒同期会が開催される。
〔第38回朝玄書道会展〕(中村朝
山昭和30年卒)がテオード
パレットで開催される。(函館)
松前支会総会に橋田会長が出席
する。(松前)
七飯支会総会に橋田会長が出席
する。(七飯)
福島支会総会に花田副幹事長が
出席する。(福島)
首都圏支部設立総会・懇親会に
橋田会長・土谷幹事長が出席す
る。(東京)
指導主事等会総会・懇親会に橋
田会長・土谷幹事長が出席する。
〔書五人展〕(齋藤篤昭和43年卒
他)が函館市芸術ホールギヤラ
リーで開催される。(函館)

函館校旧音楽棟改修部屋の夕陽会での活用

函館校旧音楽棟の一般利用室、ホールへの改修に伴い、大学から夕陽会に一室の使用便宜が図られたことから、その活用について検討する。

大学は、北方教育資料館活用及び地域連携（地域開放等）等を理由に、校舎改築、保存の申請を文部科学省に提出し、認可・予算化されてきた経緯があり、それらの趣旨にそった使用方法をとる。

1 名称(表示)

北方教育資料館（夕陽記念館）活用準備室

※表示に夕陽会等、他団体、組織の名称は使用できない。

2 使用目的

- ・北方教育資料館の開放、活用に関する計画、準備のための作業を行う部屋とする。
- ・北方教育資料館の開放に伴う管理担当者の控室とする。
- ・北方教育資料館の資料の活用を図り、教員を目指す学生と北海道教育について懇話する部屋とする。
- ・北方教育資料館の展示資料、作品等の修繕、所蔵目録の作成を行う部屋とする。
- ・北方教育資料館の活用に関し、地域連携センター等と会議を行う部屋とする。
- ・夕陽会会員が会議、懇談する部屋とする。

3 部屋の仕様

・楕円テーブル 1卓 椅子 8脚 書架 1架 湯茶キャビネット 1台

4 その他

- ・北方教育資料館（夕陽記念館）活用準備室長（厚生部長兼務）を委嘱し、置く。
- ・部屋使用予約、使用簿を置く。



室蘭支部便り

室蘭市支部長 **北嶋 重幸**
(昭和48年卒) 室蘭市立東明中学校長

昨年の副支部長から、今年度支部長を仰せつかりました。支部役員の皆さん並びに全ての会員の方々と力を合わせ、支部の活動がスムーズに行われるよう努めて参りたいと思っております。この立場になり、これまで室蘭支部を営々と支えてこられた大先輩たちの夕陽会に寄せる並々ならぬ思いを改めて感じているところでです。

今年三月、道教育大の教育課程再編により、教員養成課程最後の卒業生を世に送り出した私どもの母校であります。このことを受け、今後の夕陽会及び夕陽会室蘭支部のあり方も大きく様変わりするであろうと、平成十六年、当時の支部長さんを中心とする役員さんが中心となり、これまでの歴史を記録に残そうという気運が高まりました。先輩たちの残した輝かしい足跡を辿ることで私どもの教育活動に生かされるであろうというのが編纂のねらいです。七十ページに及ぶ冊子のタイトルは「支部の歴史をふりかえって」です。

その歴史を紐解くと、室蘭支部はかたより以前から同窓の「集い」としての動きはありましたが、規約を制定し組織としての形を成したのが昭和三十二年であります。因に、この頃は本部への納入金二百四十円を含め年額千八百円でありました。それ以後、昭和五十年代から平成ひ

と桁あたりまでは総会、各種の例会は現職会員二百名、OB会員五十名という賑やかでかつ華やかな中で行われておりました。しかし、現在では各種会合の出席者は往年の二割にも満たない有り様です。室蘭市は小中学校三十校あり、私どもの同窓は百二十一名おります。ところが、今年度の現職の会員数は六十名、OB会員八十一名となっております。夕陽会への加入率が五割の状況で、他支部におかれても同様の悩みを抱えていると思われ

ますが、室蘭支部も組織運営上、大きな課題として捉えております。私の学校にも二名の未加入者がおりますので、何とか今年度中に校内での「ミニ同窓会」を開き、少しでも組織拡充の役に立てればと考えているところです。

五月八日、室蘭支部の総会が開催され、本部の掲げる「創造し行動する夕陽会」を指標とし、「相互の親睦をもとに職務の専門性の向上を図り、併せて本部との連携を密にし、教育の振興に寄与すること」を確認し合いました。今年度も各種事業を展開して参りますが、互いに声掛けを積極的に行い、「参加してよかった」、「次回も参加したいね」の声が聞こえるものになりたいと思っております。歴代の支部長に習い、夕陽会発展のため微力ながら頑張る所存です。



十勝支部便り

〓同窓とは思議です〓

十勝支部巴湾会会長 **伊勢 藤勢 治久**
(昭和47年卒) 豊頃町立豊頃小学校長

支部長会議のお陰で久しぶりに函館を味わってきました。前日は大門の居酒屋で新鮮な函館の幸を味わい、二十日は湯の川で共に過ごした寮の友と楽しいひと時を過ごしました。私にとつて函館は、たった四年間しかいなかったのですが心を熱くしてくれる心の故郷です。

十勝支部「巴湾会」の歴史を辿つてみますと、昭和六年、帯広市も含め夕陽会十勝支部が諸先輩のご尽力でたちあがられました。当時の会員は八十名ほどだったそうです。そして、昭和十一年、帯広市と分離し現在の夕陽会十勝支部「巴湾会」が誕生しました。

そして、今も『土地墾闢』『人民蕃殖』の開学の精神は十勝でも七十数年間脈々と受け継がれ、それぞれがそれぞれの地で地域の風となり人を育むという仕事に誇りをもって取り組んできたと確信しているところです。

現在、巴湾会の会員は現職百二名、OB五十一名で組織されています。運営方針「人間味ある仲間づくりを基調にし、連帯意識を高める活動の展開を図る」のもと、主な活動内容は以下の通りです。

- 一 研修部
 - 新春合同研修会
 - 中堅教師学習会(年十二回)
- 二 組織部
 - 会員名簿「臥牛」の発行

三 広報部

- 会報「かけはし」の発行(年三回)
- 四 一部会

- 研修会(退職校長講話・激励会等)
- 五 二・三部会

- 合同懇親会
- 六 OB会

● 「七夕の集い」(八月七日)

最後に、平成十九年度、五十%に満たなかった会費納入率が二十年度は七十%に伸びました。若い仲間の納入率が飛躍的に高くなったのです。また、懇親会などへの若い人達の参加も増えてきました。管理職会員の声掛けと、納入していただいた会費を会員に少しでも還元できたらと、①研修会参加助成金、②二・三十代会員への方面交流会参加費助成、③自主研修会助成(五人以上で行う研修会に一人千円)等を二十年度から実施した成果かもしれません。

同窓とは思議です。歳もばらばら、大学時代の面識もないのに親近感を覚えます。先輩は敬わなければいけないし、後輩は可愛いのです。臥牛、八幡町、研究室、夜景、漁火、大門、寮、学生運動、五稜郭、人情：それらの幾つかが私達の人生の原風景になつているからだと思えます。夕陽会員であることに誇りと責任をもち、十勝巴湾会は少数精鋭・行動する同窓会でありたいと思っています。

前納会費納入会員名簿追加分

安田 正司	幕別	昭46	佐藤 茂樹	函館	昭46
宇野 敏昭	室蘭	昭46	中津 雄志	函館	昭46
石井 秀樹	栗山	昭46	藤澤 建二	函館	昭46
笹原 彰夫	札幌	昭46	上平 敏和	函館	昭46
永谷 澄子	函館	昭28			
酒井 充	函館	昭46			

(平成二十一年七月二日現在)

夕陽会員計報

村木 和世氏	昭15	21・1・28	立花 清氏	昭26	21・5・25
岩手県岩手郡岩手町江刈内9の38の6		明宏氏	北斗市七重浜3の11の6		夏枝氏
辻 務氏	昭34	21・3・29	高島 温厚氏	昭20	21・6・12
函館市山の手3の55の9		征子氏	北見市高梁西町5の7の7		カヨ子氏
森井 光彦氏	昭53	21・4・1			
二海郡八雲町上八雲296		典子氏			
秦 潤衛氏	昭20	21・4・1			
旭川市豊岡1条7の4の4三		智枝子氏			
角五千修一氏	昭31	21・4・16			
函館市時任町26の11		治美氏			
森田 敏氏	昭30	21・4・30			
今金町字美利河230		誠子氏			
高橋美智子氏	昭38	21・5・4			
函館市末広町18の26		勇氏			
粥川 幸夫氏	昭31	21・5・11			
北広島市共栄町2の5の8		美知子氏			
伊藤 順夫氏	昭30	21・5・18			
函館市本通2の1の35		礼子氏			

平成22年度 本部総会・懇親会

期 日 平成22年 6月19日 (土)
会 場 函館国際ホテル
(函館市大手町16-9 ☎0138-23-6161)

平成23年度 札幌開催予定

前納会費制度

利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお願いいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(隔年発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載その他慶弔規定の適用
前納会費の額は、卒業年次により異なっております。

次の四段階になっております。
①大正年代の卒業生 五千元

②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万元

③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万円

④平成元年以降の退職者 三万円

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報一九八号をお届けいたします。会員の皆様から玉稿や貴重なお写真をお寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。

◆今号の表紙は『旧函館ドックのグライアスクレーン』の解体の様子の写真です。同クレーンは一九七五年、函館ドックが造船用クレーンとして設置して以来、函館のランドマークとして、四半世紀近く函館市民や観光客に親しまれてきていましたが、撤去・解体作業が六月二十二日から始まりました。

クレーンは二基とも、紅白の特徴的な門形、高さ七十メートル、幅百十メートル、重さ二千トンの威容を誇ったクレーンで、港の景観と切り離せない存在でした。長く函館港にあったため愛着を感じたため取り壊すこととなりました。

◆各支部での研修会やブロックでの活動が盛んになってきております。

開催を予定されている支部あるいは、ブロック等は本部事務局に早めに連絡をお願いいたします。

◆情宣部の今年度のスタッフは戸澤和彦(昭54卒 桔梗小長) 沢田慶一(昭54卒 駒場小頭) 古川邦彦(昭56卒 湯川小頭) 淀川仁(昭63卒 駒場小)です。どうぞよろしくお願いたします。

(情宣部長 伊勢 昭記 昭49卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局
電話番号(0138) 46-2235
夕陽会専用(0138) 34-5520
FAX番号(0138) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)